

## 沖縄県振興審議会 第1回福祉保健部会【議事要旨】

**1 日 時** 令和3年7月14日(水) 14:30~16:30

**2 場 所** 沖縄県庁 6階 第2特別会議室

### **3 議題**

- (1) 調査審議の進め方について
- (2) 福祉保健部会開催スケジュールと検討テーマについて
- (3) 「新たな振興計画(素案)」と「主要・成果指標」について

### **4 出席者**

#### 【部会委員】

安里 哲好	一般社団法人沖縄県医師会会長
湧川 昌秀	社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会会長
米須 敦子	一般社団法人沖縄県歯科医師会会長
平良 孝美	公益社団法人沖縄県看護協会会長
前濱 朋子	一般社団法人沖縄県薬剤師会会長
宮城 雅也	公益社団法人沖縄県小児保健協会会長
小那覇涼子	公益社団法人沖縄県母子寡婦福祉連合会 沖縄県マザーズスクエアゆいはあと統括責任者
安座間葉子	沖縄県保育協議会会長
岡野みゆき	公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会事務局長
村田 涼子	社会福祉法人若竹福祉会理事長

#### 【沖縄県振興審議会委員(産業振興部会)】

本村 真	国立大学法人琉球大学教授
------	--------------

(欠席)

村濱千賀子	公益社団法人沖縄県栄養士会会長
高良 清健	一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会会長

#### 【事務局等】

保健医療部 : 大城保健医療部長、諸見里医療企画統括監、名城保健医療総務課長、  
宮城医療政策課長、比嘉副参事兼総務企画班長(保健医療総務課)、

池間薬務専門監(衛生薬務課)、糸洲看護専門監(保健医療総務課)、  
児玉主査(保健医療総務課)

子ども生活福祉部:名渡山子ども生活福祉部長、座安生活企画統括監、  
官平子ども福祉統括監、塩野参事、久貝福祉政策課長、大城保護・  
援護課長、屋我高齢者福祉介護課長、山内青少年・子ども家庭課長、  
仲村子ども未来政策課長、前川子育て支援課長、宮里障害福祉課長、  
神谷総務企画班長(福祉政策課)

### **【議事要旨】**

- 始めに、新たに沖縄県振興審議会福祉保健部会専門委員となった5名へ委嘱状を交付していることをお伝えした。
- 次に、大城保健医療部長によるあいさつ、各委員及び事務局の紹介をおこなった。
- 安里部会長による議事の下、事務局から各資料の説明、今後の部会の進め方、スケジュール、各回の検討テーマ、新たな振興計画素案及び関連体系図についての説明後、各委員による自由討議等が行われた。

### **【「健康・長寿おきなわ」の復活】について】**

- 安里部会長より、健康長寿復活への一つの大きな因子として、働き盛り世代の健康づくりについて報告書(素案)への追記の提案があった。

### **【医療・保健など地域の安心を支える人づくりについて】**

- 米須専門委員より、歯科医師の確保も含めて欲しいこと、前濱専門委員より、新たな沖縄振興計画の10年間の間に、県内国公立大学に薬学部が設置されるように取り組んで欲しいとの要望があった。
- 事務局より、無医地区等においてドクターバンク事業等が行われており、その対象として歯科医等も含まれている旨の説明があった。また、県内国公立大学への薬学部設置へは今後も引き続き取り組むこと及び薬剤師の奨学金等の制度に関して、これからも予算確保等に向けて取り組む旨の説明があった。

### 【成果指標について】

- 平良専門委員より、施策に対して成果指標が一对一の関係（評価）でいいのか。看護師に関しては看護師だけ見るのではなく、保健師も助産師もあり、人口10万人で見る指標が実際の確保の状況と合っているのかとの質問があった。また、施策が「看護師等の」となっているのであれば、後ろも「看護師等」にしたほうがいいのでは、との意見があった。
- 事務局より、施策に対して成果指標は一对一となっていること、看護師等確保と資質向上の施策の代表の指標として看護師で定めたこと、実際の取組は看護師だけではなく、保健師、助産師に向けても取組を行う予定であることを説明した。また、今後指標の数値等を示した上で、部会において設定の妥当性等を議論いただきたい旨回答した。
- 湧川副部長より、指標関係では、過去からどのくらい発展してきたのか、全国平均との比較や人口が同程度の県との比較など、位置づけが必要ではないかとの意見があった。
- 事務局より、医療計画では先行してロジックモデルでつくっていること、また医療計画を参考にすると一般的には全国平均を目指すという置き方が多くあること、今回、極力数値化して目標を置くこととしていること、指標の置き方や背景、推移などの提示は次回以降となることを説明した。

### 【保育士の育成・確保について】

- 安座間専門委員より、保育士の資質向上の部分で、1年目、5年目、10年目の保育士の研修等も含むとよい旨の提案があった。
- 事務局より、キャリアアップ研修や継続年数に合わせた専門的な研修等は、これまで同様取り組むこと、併せて労働環境の改善や保育士の定着支援に係る支援についても、新たな制度提言の中で、現在検討している旨の説明があった。

### 【出生率などについて】

- 宮城専門委員より、最近格差の広がり話題となっているが、指標は平均のみを考えてよいのか。沖縄県の元気さである「出生率」は指標に入っていないのか、多くの計画があるがどうつながっていくかが見えない。この計画にAIを活用し

各種計画のつながり方を考えたらどうかとの質問があった。

- 事務局より、黄金っ子応援特別制度を国に提言し、合計特殊出生率が全国一という沖縄の特殊性を生かして、さらに多子世帯の経済的な負担軽減などを図り、全国に先駆けた次世代育成支援モデル地域を目指すこととしていることを説明した。
- 安里部会長より、指標は上がるが格差が広がること、膨大な資料のITを使っての連携については、次回以降の検討課題とする旨の発言があった。

### 【ひとり親家庭等への支援について】

- 本村委員より、ひとり親対策の中で祖父母などが子どもを養育している世帯への支援も必要であるため、キーワードとしてどこかに記載することの提案及び感染症対策について、水際対策を徹底するためのシステムづくりについて質問があった。
- 事務局より、「ひとり親家庭等」の「等」に養育者世帯も含んでおり、支援に取り組んでいるが素案へどのような形で取り込めるかについては検討したい旨の説明があった。
- 安里部会長より、コロナの水際対策については、次々回に医師会等から意見したい旨の発言があった。
- 岡野専門委員より、ひとり親家庭等とはほかにどういう世帯が想定されているのか及び授業料等の負担軽減に取り組む「大学等」には通信制高校も含まれるのかとの質問があった。
- 事務局より、ひとり親等には生活困窮の家庭等も含まれていること及び大学等への奨学金は全国的に修学支援新制度で手厚くしているが、低所得層に限れば、子どもの貧困の関係で、沖縄子どもの未来県民会議において、児童自立支援施設や児童養護施設にいる子どもたちを対象に、大学や専門学校に進学する子供たちの学費その他身の回りの準備金を毎年給付している旨の回答があった。
- 小那覇専門委員より、ひとり親家庭以外の寡婦、養育者世帯、や生活困窮者などそれぞれで必要な支援を盛り込んでいくほうがいいのではないかと提言意見があった。
- 事務局より、ひとり親家庭以外に生活困窮者や養育者世帯などを含める形で、振興計画の中でどこまで明確に、具体化して記載できるかを引き続き検討したい旨

の回答があった。

#### 【薬物乱用防止対策の強化について】

- 前濱専門委員より、薬物乱用防止教育はなるべく早い時期から学ぶこと大切であること及び覚せい剤については、沖縄県は再犯率が高いことから、再犯・再乱用防止には薬物依存症の治療と社会復帰の支援の充実・強化が重要との意見があった。
- 事務局より、引き続き関係機関や関係団体等と連携しながら、今後とも薬物乱用防止対策について強化したい旨の回答があった。

#### 【福祉・介護人材の育成・確保について】

- 村田専門委員より、沖縄県は事業所の数が多いが人が育たないという現実があること、サービス量はあってもそれを使えない矛盾があること、包括支援センターを建てても人が変わりサービスを受けられないことは人材育成の中で大きな課題と考えること、中身の少ない事業所が増えることのないよう整理が必要、との意見があった。
- 事務局より、障害福祉サービス事業所も2,000余りということで非常に多いが、十分なサービスを提供するために多くの事業所になっていると考えること、サービスの提供に当たっては市町村がサービスの実施主体になるが、自立支援協議会などのアドバイザー等を活用し、質の高いサービス等の提供について引き続き取り組んでいく旨の回答があった。